

コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	82 行政バス運行経費	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
基本	51 市内交通機関の利便性を高める	目	06	企画費
施策		細目	125	バス等対策事業経費
行革大綱の重点事項番号	2	細目	51	行政バス運行経費
担当部課	コード 550100 名 称 伊賀支所 振興課	担当者氏 名	中原 康雅	連絡先 45 - 9111 (内線) 230

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	交通空白地帯における市民	※対象件数
成果(どうする)	通学、通院、通勤等の移動手段を確保する。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 14 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H22 事業内容	柘植・西柘植線、西柘植・壬生野線、希望ヶ丘線の3路線で、1日19便運行している。 直営方式で、29人乗りバス1台と15人乗りバス1台で、日・祭日・年末年始を除き毎日運行した。	
社会情勢の変化等	伊賀市新交通計画に基き、伊賀市全体の交通網の整理と行政バス運行業務のスリム化(運行形態の統一)を図る必要がある。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
活動指標	運行便数	便	目標 5292 実績 5519	目標 5586 実績 5586	5605	5586
	ルート等についての関係機関との協議	回	目標 2 実績 1	目標 2 実績 1	2	2

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
成果指標	収支率	運賃維持可能な収支であるか	%	目標 18.9 実績 16.9	目標 18.9 実績 14.7	18.9	18.9
	年間利用者数	需要があるか	人	目標 16,000 実績 11,987	目標 12,000 実績 9,394	12,000	12,000

投入コスト		H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
投入コスト	直接事業費計 (A)	14,182	10,473	11,140	17,740
	A の財源内訳				
	国庫支出金	1,925			
	県支出金	2,561	2,461	2,256	2,256
	地方債				
	その他	2,047	1,542	1,515	1,500
	一般財源	7,649	6,470	7,389	13,984
投入コスト	事業投入人件費 (B)	0.7 人 5,040	0.7 人 5,040	0.7 人 5,040	0.1 人 720
	フルコスト(A)+(B)	19,222	15,513	16,180	18,460

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	○
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第3者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	○
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
有効性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合は、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い	○
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
	当初設定した計画を 60%以上80%未満 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 無	収支率・利用者数の増が見込まれる交通計画の見直しが必要
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	○
効率性	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	○

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	平成22年度伊賀市交通計画見直しの中で、各支所への要望事項や運行の現状把握を行うとともに、市民への行政バス利用促進を図る。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 平成23年度伊賀市交通計画改定に向け、市民アンケート調査の実施等を行い、各路線別の状況と課題の把握を行った。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	橋本 忠大
事業の方向性	【方向性】 民間委託 【理由】 現在支所で自主運行しているが、他支所はほとんどが委託運行となっており統一性が必要である。
現時点における課題、その他	地域住民から病院、スーパー等への直接乗り入れの要望と他支所の運行バスの地域内運行の要望があり、交通計画の見直しとともに委託運行を実施する。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	24年度または、25年度から委託実施できるように交通計画等の見直しをする。(住民からの要望の把握と住民へのバス利用促進)